

異国文化を生活レベルで楽しむ江戸時代の庶民

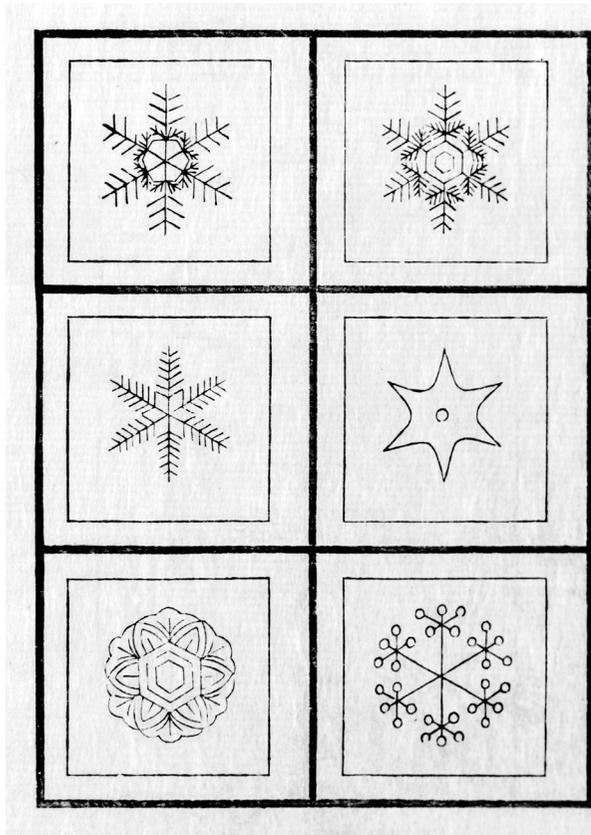


洋の東西を問わず、異国の文化には興味があるもの。異国の話をまとめた本が売られ、舶来品専門店が注目を浴びます。しかし、庶民の好奇心はそこで終わりませんでした。顕微鏡で見たミクロの世界は、虫を操る妖術師の物語になり、雪の結晶は着物や食器の新しいデザインに化けました。日本では、科学の叡^{えい}智^ちが一部の特権階級だけのものとならず、庶民たちが等身大で楽しむ対象となっていきました。

日本初、雪の自然科学書「雪華図説」と江戸の粋



古河藩主・土井利位^{とし つか}は、雪の結晶を20年に渡り顕微鏡で観察し続け、1832年本書とその後、続編を刊行しました。初めて見る雪の結晶^{はな}を華に見立て、着物や小物などの新しいデザインとして楽しむ江戸の庶民。そこには、もしければ、自然体な「粋^{いき}」が感じられます。



「雪華図説」 西尾市岩瀬文庫 所蔵

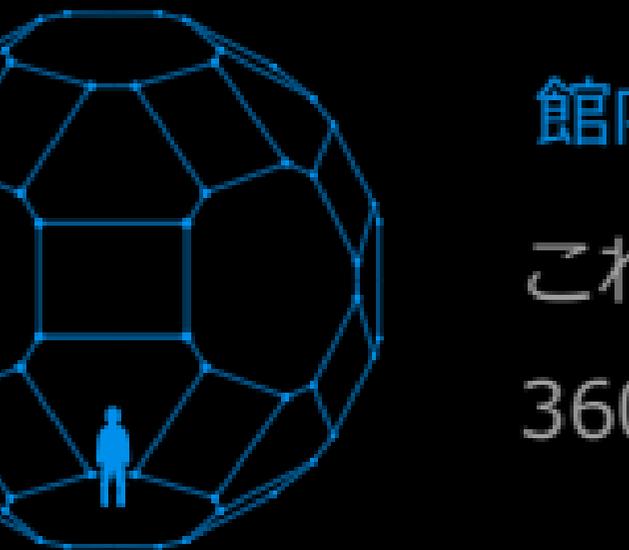


「江戸の松名木 書 画 押上妙見の松」 古河歴史博物館 所蔵

館内企画展アーカイブ

バーチャル展示室

THE VIRTUAL
EXHIBITION ROOM 360



館内企画展アーカイブ **バーチャル展示室360** > <https://www.tcmmit.org/360virtual/>

これまでにトヨタ産業技術記念館で開催した企画展をご紹介します。デジタルアーカイブです。

360度VRコンテンツで、臨場感溢れるバーチャル展示をお楽しみください。



トヨタ産業技術記念館

当サイトに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。

Copyright(C) Toyota Commemorative Museum of Industry and Technology All rights reserved.